

科目名	幼児の言葉				担当	長田 真紀		
形態	講義	単位数	1	開講時期	1 年前期	実務経験		
必修	卒業：必修 幼免：必修				ナンバリング	Y1203	DPとの関連	2
授業概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉を身につける大切さと、幼児期の言葉の発達について理解する。子どもが自分の気持ちを言葉で表現できることを育くむにあたり、言葉遊びや児童文化財等の教材研究を通じ具体的な知識と技術を実践的に学び、言葉の保育力を身につける。							
到達目標 学習成果	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における内容領域「言葉」の意義、言葉が子どもの発達に与える影響について理解する。他の領域との関係を理解し幼児期の言葉の獲得過程・発達に応じた保育教材の研究と実践ができるようになる。							
授業計画	回	内容						
	1	領域「言葉」	領域「言葉」のねらいと内容についての解説					
	2	幼児期の言葉の獲得	子どもの言葉の発達過程について					
	3	言葉に対する感覚	言葉のおもしろさや美しさ、言葉の表現について					
	4	言葉に対する感覚を豊かにするとは？	様々な言葉遊びについて					
	5	言葉に対する感覚を豊かにする実践	保育に活かす言葉遊びについて					
	6	言葉を育てる環境	子どもの言葉に対する興味関心の深め方について					
	7	言葉の獲得（話す）	伝達することにおける言葉の獲得について					
	8	言葉の獲得（読む）	子どもが絵本などを読むことにおける言葉の獲得について					
	9	言葉の獲得（文字）	文字に対する興味や理解を示す実践方法について					
	10	領域「言葉」と児童文化財①	文化財の理解と保育への活かし方について					
	11	領域「言葉」と児童文化財②	絵本、童話、民話、素話などの実践と言葉について					
	12	領域「言葉」と児童文化財③	文化財や文字を用いた教材研究と指導案の作成					
	13	言葉の指導計画の実践①	指導案に基づく児童文化財を用いた実践発表					
	14	言葉の指導計画の実践②	言葉の獲得と模擬保育の実践について					
15	言葉の獲得をめぐる課題	模擬保育の省察と小学校教育への連携について						
評価基準	領域「言葉」の保育内容を十分理解し、保育者としての専門的知識と実践的技術・方法を身につけることができたか、また、実践発表までの過程や成果の課題を評価基準とする。							
評価方法	絵本、紙芝居の読み聞かせ等の実践 40% 課題 40% 授業態度 20%							
フィードバック 方法	課題は採点后、返却。講評も付す							
アクティブ ラーニング	読み聞かせ等のグループワークと発表							
教科書	『言葉とふれあい、言葉で育つ』大越和孝ほか／東洋館出版 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針原本』 (平成 29 年 6 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)							
参考書	『幼稚園と小学校の教育（改訂版）』乙訓稔編 / 東信堂 他、随時資料を配布する							
履修条件	保育の言葉に関する基礎知識を得ておくこと。子どもの言葉の獲得のために、保育者としての知識や具体的な指導方法を身につけようとする意識を持って履修すること。							
授業外学習	・事前学習：授業時に提示する資料・文献を事前に必ず読み、理解しておくとともに、読み聞かせ等の準備をよくした上で、授業に臨むこと。(各回 30 分) ・事後学習：授業で扱われた内容を整理し、課題の作成を行う。(各回 30 分)							
オフィスアワー	学生支援課の掲示板に掲示する。2 階 17 番研究室							